

催吐リスク DTX

胃 S180/d1-14+DOC40/d1(2c-)

薬剤名	投与経路	投与量	希釈液	点滴時間(分)	投与日(day)
S-1	経口		mg mg mg		1-14
デキサメタゾン	注射	16.5	mg 生食	100 mL 30	1
ドセタキセル	40	mg/m ²	5%糖液	250 mL 60	1
				mL	
				mL	
				mL	
				mL	

内服薬

デキサメタゾン 8mg 分2 day2,3,4
(浮腫予防)

投与基準等

Ⅱ. 投与基準 (例:白血球数2000/mm³, 血小板数100G/mm³)
 治療開始基準(1コース目)

白血球数	絶対値が低下している場合 4,000/mm ³ 以上 20,000/mm ³ 以下
好中球数	1,500 /mm ³ 以上
血小板数	90.0×10 ³ /mm ³ 以上
ヘモグロビン	8.0 g/dL 以上
血清ビリルビン	1.5 mg/dL 以下
AST, ALT	200 IU/L 以下
血清クレアチニン	1.2 mg/dL 以下
消化器症状(下痢、口乾粘膜炎、悪心、嘔吐、食欲不振)	Grade 3 以下
肝臓毒性	担当医師が投与不適合と判断する Grade 2 以上の非血液毒性が

各コース目コース実施開始時の投与基準

白血球数	1,000 /mm ³ 以上
好中球数	1.5 × 10 ³ /mm ³ 以上
AST, ALT	100 IU/L 以下
血清ビリルビン	1.5 mg/dL 以下
血清クレアチニン	1.2 mg/dL 以下
消化器症状(下痢、口乾粘膜炎、悪心、嘔吐、食欲不振)	Grade 1 以下
肝臓毒性	担当医師が投与不適合と判断する Grade 2 以上の非血液毒性が

ⅡB-1コース内投与基準

白血球数	1,000 /mm ³ 未満
好中球数	7.5 × 10 ³ /mm ³ 未満
血清クレアチニン	1.2 mg/dL を超える
消化器症状(下痢、口乾粘膜炎、悪心、嘔吐、食欲不振)	Grade 2 以上
肝臓毒性	Grade 2 以上の非血液毒性にて担当医師が投与を必要と判断し

ⅡB-1コース内投与再開基準

白血球数	1,000 /mm ³ 以上
好中球数	7.5 × 10 ³ /mm ³ 以上
血清クレアチニン	1.2 mg/dL 以下
消化器症状(下痢、口乾粘膜炎、悪心、嘔吐、食欲不振)	Grade 1 以下
肝臓毒性	担当医師が投与再開を必要と判断し

Ⅲ. 減量基準 (例:Grade3以上の好中球減少時、次回より投与量を80%に減量)

TS-1, Doc 減量基準

項目	減量規準	
	休止時の状態	再開時の減量の有無
好中球数	500 /mm ³ 以上 1,000 /mm ³ 未満	減量しない
発熱性好中球減少	500 /mm ³ 未満	1段階減量
発熱性好中球減少	Grade3 以上	1段階減量
血小板数	5.0 × 10 ⁴ /mm ³ 以上 7.5 × 10 ⁴ /mm ³ 未満 5.0 × 10 ⁴ /mm ³ 未満	減量しない 1段階減量
血清クレアチニン	1.2 mg/dL 超	1段階減量
消化器症状(下痢、口腔粘膜 炎、悪心、嘔吐、食欲不振)	Grade2 Grade3 以上	減量しない 1段階減量
その他の非血液毒性	Grade3 以上	1段階減量

TS-1 減量用量レベル

初回投与量	減量レベル	
	-1レベル	-2レベル
80 mg/日	60 mg/日 [※]	50 mg/日
100 mg/日	80 mg/日	60 mg/日 [※]
120 mg/日	100 mg/日	80 mg/日

Doc 減量用量レベル

初回投与量	減量レベル	
	-1レベル	-2レベル
40 mg/m ²	35 mg/m ²	30 mg/m ²

Ⅳ. 重大な副作用 (例:好中球減少 Grade3 以上37.5%)

Grade3 以上

好中球減少 38.1%、白血球減少 22.6%、食欲低下 14.1%、発熱性好中球減少 4.7%、貧血 4.4%、口内炎 4.4%、悪心 4.1%

添付参考資料(文献・ガイドライン・治験計画書・研究計画書)

J Clin Oncol 36, 2018 (suppl; abstr 4007)

J Cancer Res Clin Oncol (2014) 140:319-328